

主催：厚生労働省

新型インフルエンザの診療に関する研修

特別講演

新型インフルエンザに関する最近の動向

国立感染症研究所感染症情報センター



川崎市衛生研究所

岡部信彦

平成24年11月4日



- 季節性インフルエンザ
  - A/H3N2 (香港型)
  - A/H1N1 (ソ連型)
    - A/H1N1 pdm 09
    - B (Yamagata, Victoria)
- 新型インフルエンザ
  - さらなる新しい亜型のインフルエンザ
  - H5N1 ……?

# 新型インフルエンザの診療に関する研修

今後発生が予想される  
病原性の高い新型インフルエンザに備えて



今後発生することが予想される  
新型インフルエンザ・パンデミックについて  
病原性が高い場合などを想定した備え

# インフルエンザの流行曲線(現在)

定点当たり報告数

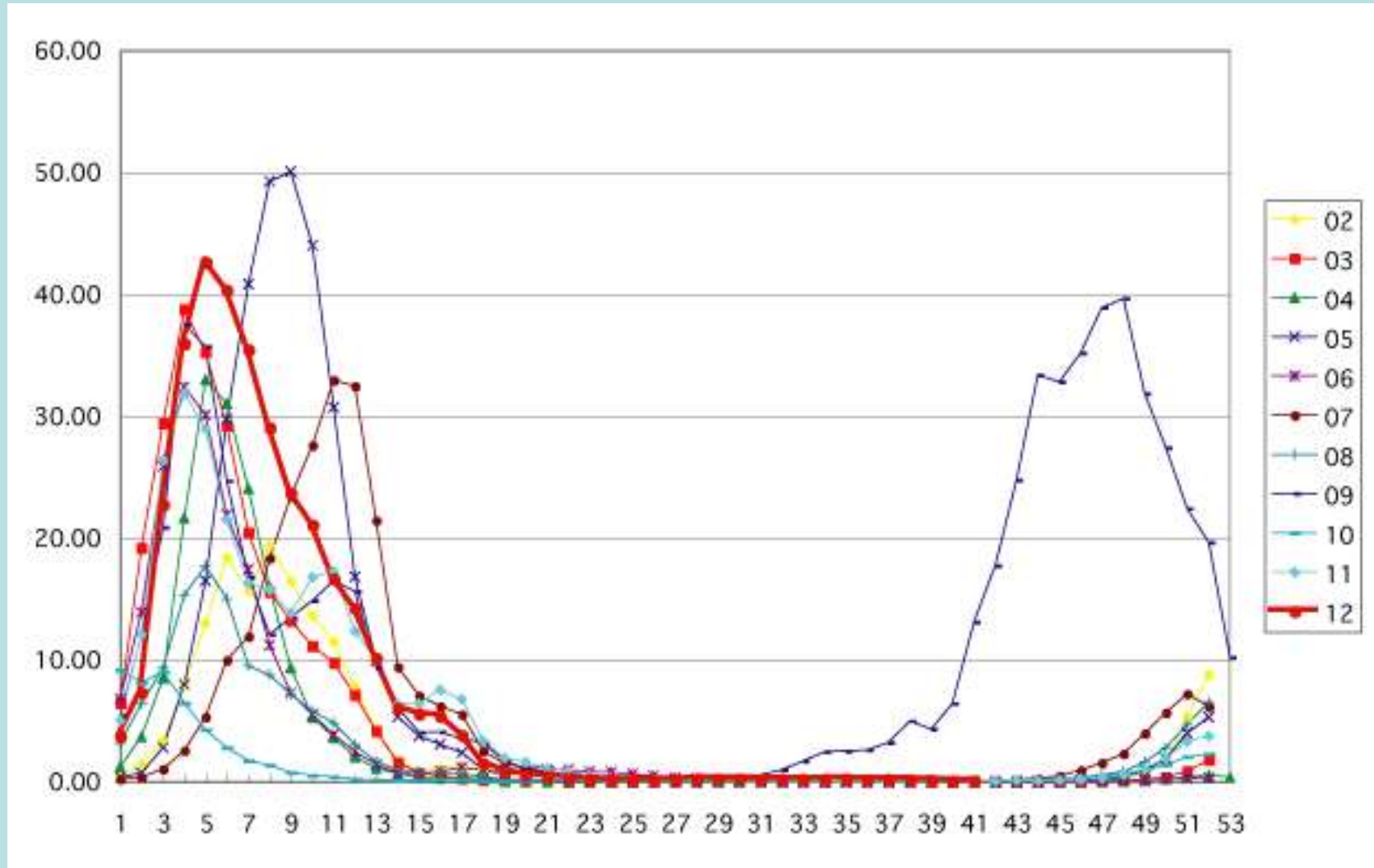


表1. 2011/2012シーズン 抗インフルエンザ薬耐性株検出情報

最終更新日: 2012/09/13

	A(H1N1)pdm09					A(H3N2)					B			
	オセルタミビル	ペラミビル	ザナミビル	ラニナミビル	アマンタジン	オセルタミビル	ペラミビル	ザナミビル	ラニナミビル	アマンタジン	オセルタミビル	ペラミビル	ザナミビル	ラニナミビル
耐性株数 (%)	0	0	0	0	9 <sup>a</sup> (100%)	0	0	0	0	137 <sup>a</sup> (100%)	0	0	0	0
総解析株数	9	9	9	9	9	277	277	277	277	278	248	248	248	248

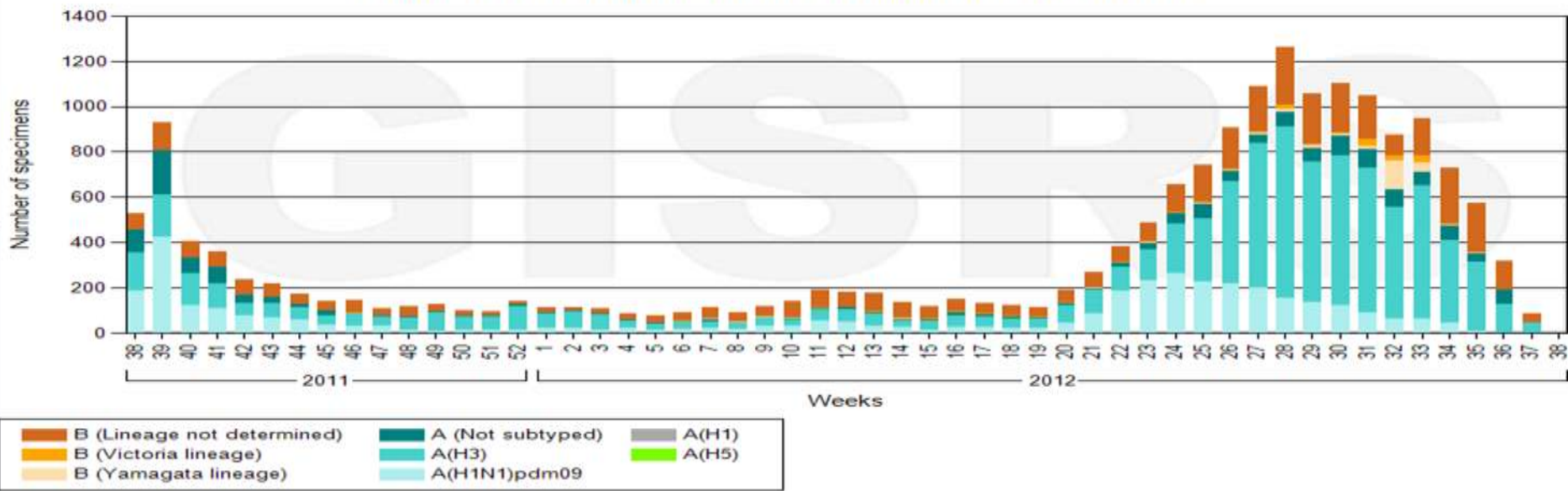
ウイルスはMUNANA基質を用いる蛍光法、real time RT-PCR allelic discrimination法、NA遺伝子シーケンス法により解析された。

<sup>a</sup> すべての耐性株はM2蛋白にS31N変異をもっていた。

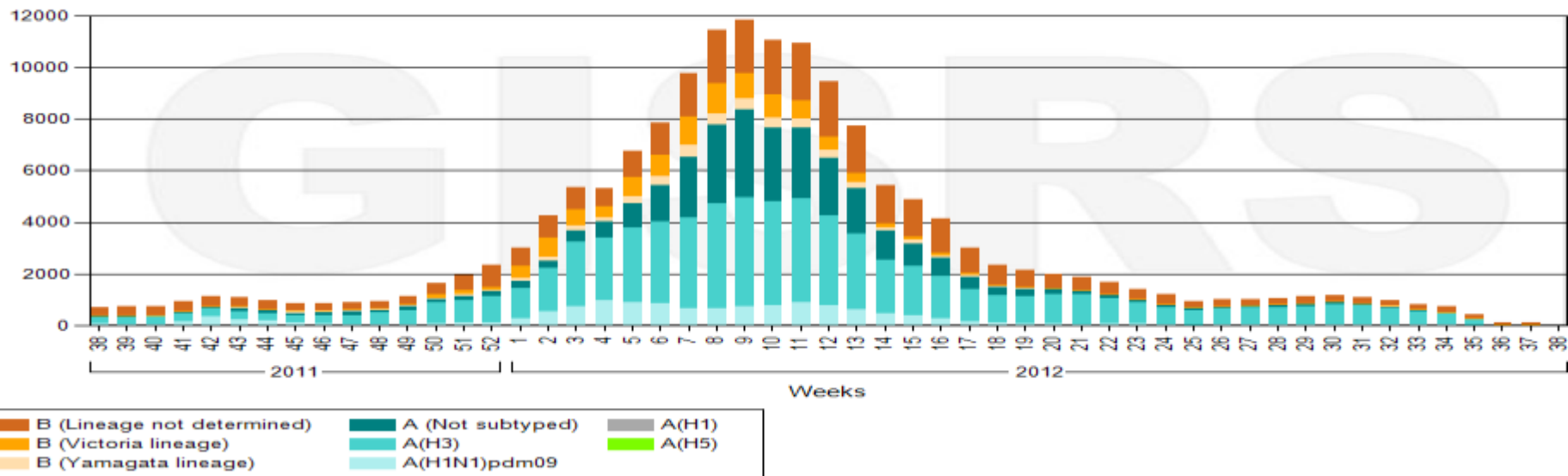


Infectious Agents Surveillance Report

### Number of specimens positive for influenza by subtype



### Number of specimens positive for influenza by subtype



# Pandemic (H1N1) 2009 発生

- 4.12 メキシコ Veracruz 市において、インフルエンザ様疾患多発の報告がIHR (Internatiuonal Health Regulation: 国際保健規則)に基づいてWHOに報告される
- 4.15-17: **メキシコ国内各地で重症肺炎多発**  
米国南カリフォルニアにおいて、2例の new A(H1N1) virus 感染例が確定
- 4.23 **メキシコの重症例でA/H1N1感染確認**
- 4.24 WHOは、これらを国際的に重要な公衆衛生上の事例 (Public Health Event of International Concern: PHEIC)であると宣言
- 4.27 WHOはパンデミックフェーズ4 を宣言
- 4.29 WHOはパンデミックフェーズ5 を宣言
- 5.8 **わが国での第1例成田検疫で確定**
- 5.15 **神戸市内高校でのアウトブレイク検知**
- 5.16 **大阪府内中・高一貫校でのアウトブレイク検知**
- 6.11: WHOはパンデミックフェーズ6 を宣言

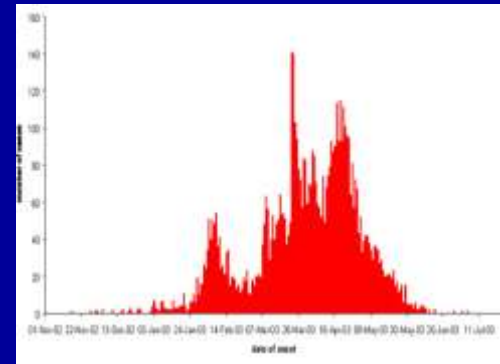
# IHR (International Health Regulations : 国際保健規則)とは(かつて)

- 発生報告

コレラ、ペスト、黄熱、(天然痘)の発生に際する  
加盟国のWHOへの報告

→ 現代の新興再興感染、感染症アウトブレイクに  
対応できるか.....

→ 2003年 SARS流行で  
改正の動きが早まる





# 2005 改正の概要

## -報告対象の拡大

- 原因を問わず、**国際的に公衆衛生上の脅威となりうる、あらゆる健康被害事象がIHRに基づく報告の対象**
- **判断基準は、**
  - 重篤性
  - 予測不可能性
  - 国際的な伝搬の可能性
  - 国際交通規制の必要性



2007.6. 実施

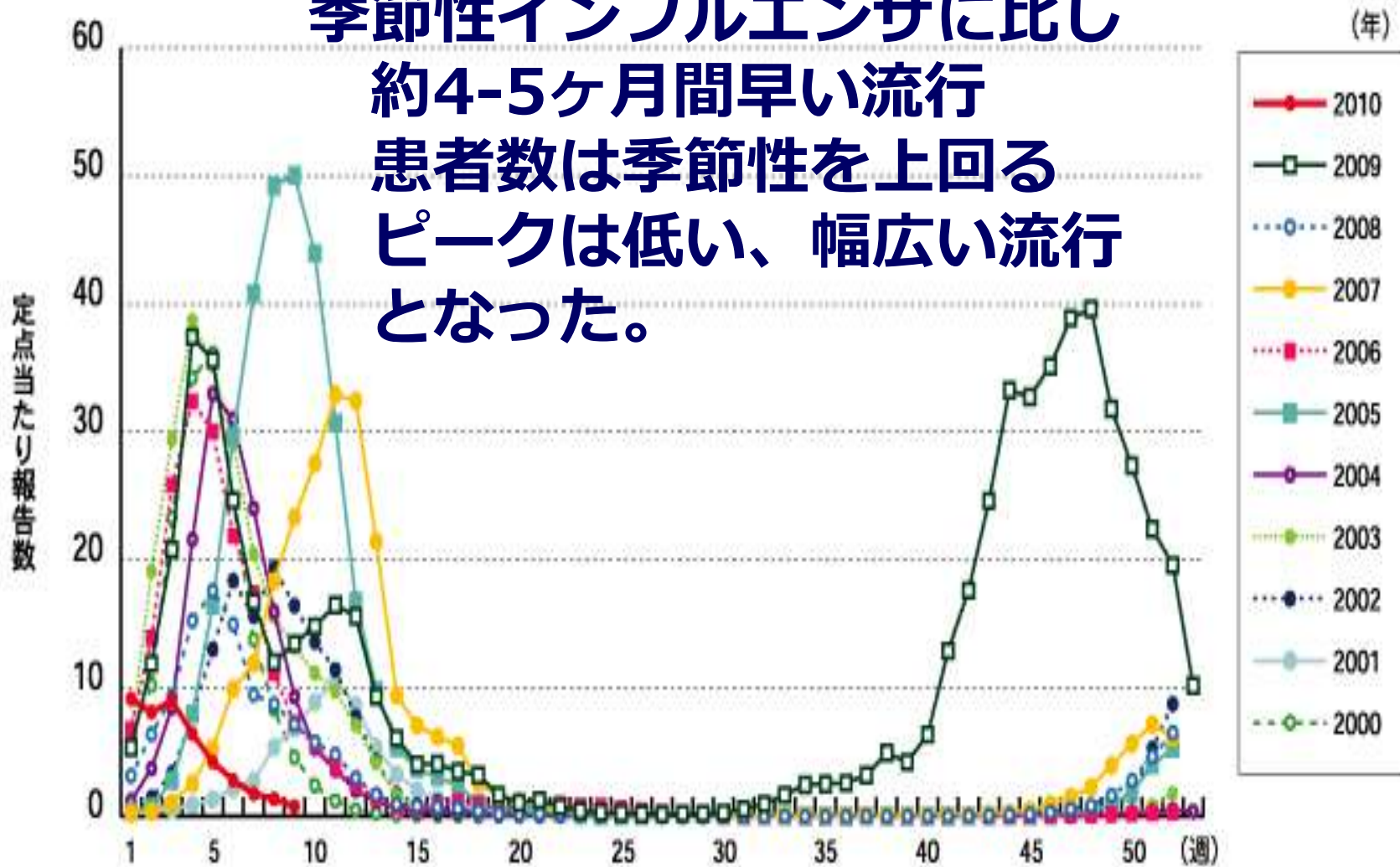
# 2005 改正の概要(3)

## -各国のコア・キャパシティの規定

- 国、地方、地域の3段階につき、サーベイランス・緊急時の対応に関して、最低限備えておくべき能力を規定。
- 空海港・陸上の国境において、日常衛生管理および緊急時の対応に関して、最低限備えておくべき能力を規定。

図1. インフルエンザの年別・週別発生状況(2000~2010年第9週)

**季節性インフルエンザに比し  
約4-5ヶ月間早い流行  
患者数は季節性を上回る  
ピークは低い、幅広い流行  
となった。**

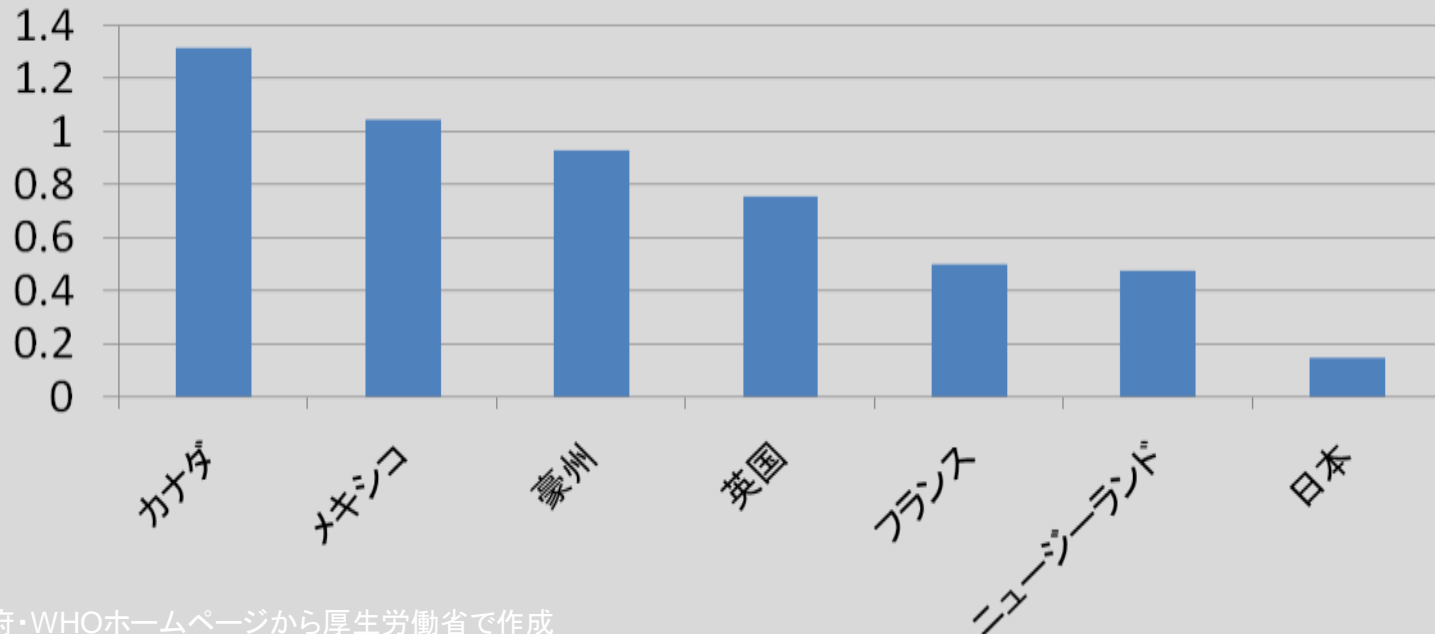


# 新型インフルエンザによる死亡率の各国比較

	米国	カナダ	メキシコ	豪州	英国	フランス	NZ	日本
集計日	2/13	3/13	3/12	3/12	3/14	3/16	3/21	3/23
死亡数	推計 12,000	429	1,111	191	457	309	20	198
人口10万対 死亡率	(3.96)	1.32	1.05	0.93	0.76	0.50	0.48	<b>0.15</b>

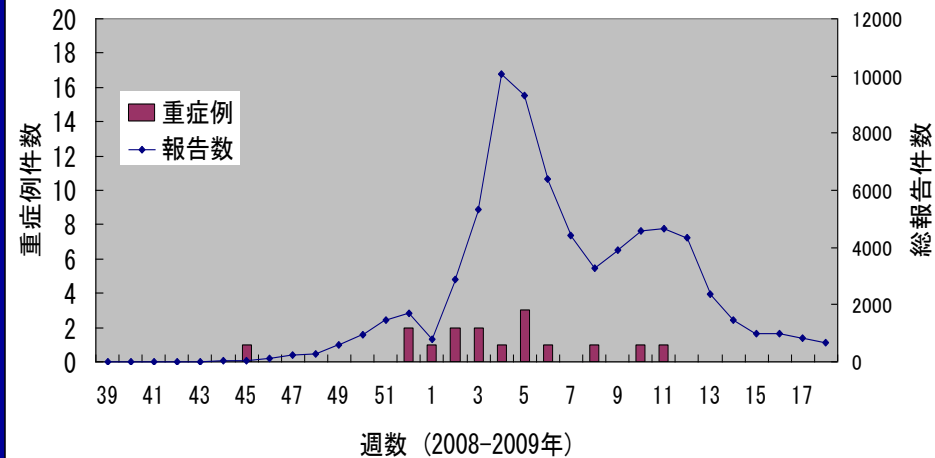
※尚、各国の死亡数に関してはそれぞれ定義が異なり、一義的に比較対象とならないことに留意が必要。

## 死亡率



# 報告数推移と重症例報告件数

報告数の推移と重症例数 (2008-2009年)



## 総報告数

- 2008-09年 : 72760件 (第39-18週)
- 2009-10年 : 86250件 (第27-05週)

## 重症例

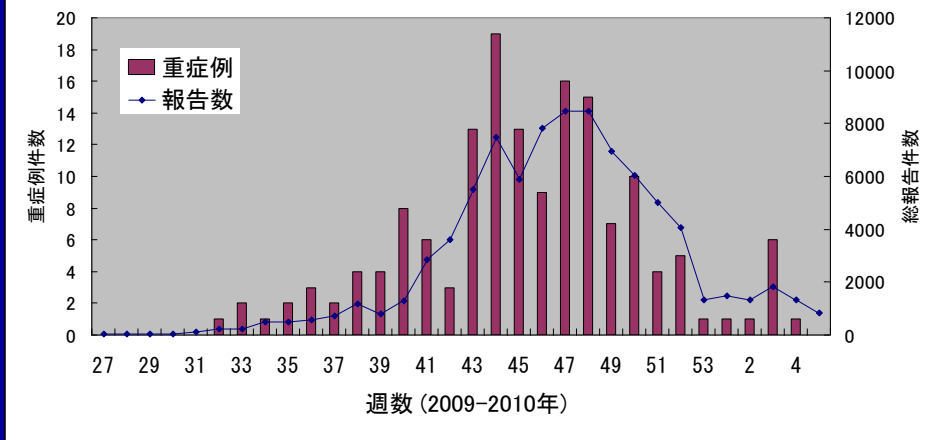
- 2008-09年 : 16件  
  - ・ 0.22/1000件
- 2009-10年 : 157件  
  - ・ 1.80/1000件

## 最多報告週

- 2008年 : 第4週 - 10074件
- 2009年 : 第48週 - 8465件

・ 2009-2010年シーズンには重症と報告された症例が多い。

報告数の推移と重症例数 (2009-2010年)



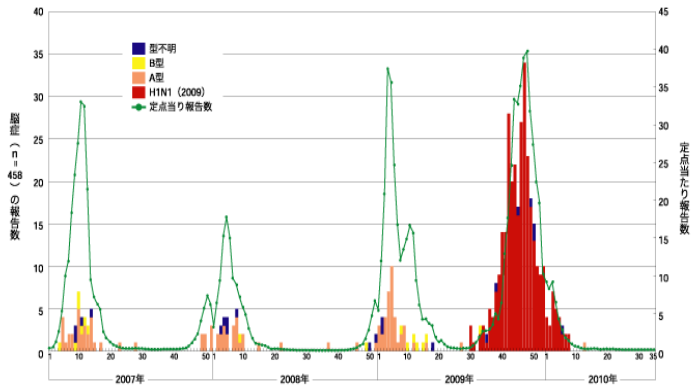
- 西藤ら MLインフルエンザ流行前線情報 データベース



# 重症鑄型気管支炎(肺炎) Plastic Bronchitis

秋田小児科ML 提供

図1. インフルエンザウイルス型別インフルエンザ脳症報告数  
及びインフルエンザ定点当たり報告数の推移(2007~2010年第35週)



## 急性脳症の増加